

短期間で水田の大区画化と担い手への集積・集約化を実現 (都城市祝吉上流地区)

！ポイント

『農地耕作条件改善事業』を活用することで短期間で整備

(事業期間: H28. 10 ~ H30. 3)

背景

●昭和30年代に農地整備を実施していたものの、小区画(平均10a)で農道も狭く、ほ場が分散し農作業効率が悪い状況

取組概要

- 「農地耕作条件改善事業」(平成28年度補正予算)を活用して、コストがかさむコンクリート擁壁畦畔除去による区画拡大に取り組み、県・市の事業も活用しながら、農道拡幅、用排水路改修等の簡易な基盤整備を一体的に実施
- 地区の有志16名による「祝吉地域農業を語る会」(平成27年発足)の会員である農業法人を実施主体として取り組んだ

苦労した点と解決方法

煩雑な事務手続に不慣れ

「語る会」の会員でもある市役所OBの協力を得て、行政との調整がスムーズに進んだ

農地中間管理機構を通じた農地集積・集約化の際、耕作者と地権者両者の同意を得るのに苦労

「語る会」の役員が調整役となり、当事者間で話し合いを重ねた

※事業活用により、50a程度であった農地中間管理機構への預け入れ面積が12.7haに増加

効果

- 人・農地プランが作成され、中心経営体及び将来の地域農業のあり方等を明確化
- 今後農業用機械の移動ロスも削減され、作業効率が向上することが見込まれる

地区概要

- ①地区面積: 14.8ha
- ②事業実施面積: 12.7ha
- ③地権者数: 87名
- ④耕作者数: 24名
- ⑤農地中間管理機構集積面積: 13ha

整備前



整備後

